

『夢を持ち続けること』

1月のある日、堀井学氏の講演を聴く機会に恵まれた。堀井氏と言えば、あのリレハンメルオリンピックにおけるスピードスケート500m競技の銅メダリストである。その程度の知識しか無いまま、私は彼の講演を聴きに行った。題して、「モチベーションを高め、目標を達成する秘訣」であった。競技生活で成功を収めた方ならではのテーマであった。

約1時間半、彼の巧みな話術によって、私を含めて聴衆は彼のワールドにすっかり引き込まれた。知らされる彼の幼少時代から成功に至るまでのお話は、笑いと感動(涙)あり。共感することも多く、あつという間に時間が過ぎていった。彼は、小さい頃から祖父に可愛がられたそうである。その祖父から、ことあるごとに、「一生懸命やれば何でも出来る」と言われた。既にスケートを始めていたが、小学校卒業の時に書いた作文に、「ぼくの将来の夢はオリンピック選手になること」と書いた。それからの彼の人生は決して順風では無かったが、祖父の言葉がいつも勇気付けてくれた。目標を持ち、それに向けて努力を重ねることで、ついに子供の頃の夢を実現するだけでなく、メダリストにまでなるのである。堀井氏は、「夢と目標を持ち続けること」。そして、「その実現のために努力を惜しまないこと」。さらには「人は一人で生きているわけではない。人に支えられて生きている。」など、多くのことを私たちに教えてくれた。

よく一流アスリートの多くは、既に子供のときに将来そうになりたい夢を話していたり、文章に書いていた、という話を聞いたことがある。大リーガーのイチロー選手もそうである。彼も小学生の頃、「僕の夢」と題して、一流

のプロ野球選手となることを目標とした。夢を持ち続けることの意味を改めて考えさせるエピソードだ。

私は、アスリートでも、一流選手でも無いが、堀井氏の話聞いていて、恐れ多いが、自分の歩んできた道と勝手にだぶらせて考えていた。何故なら、私もよく「夢をあきらめずに持ち続けること。夢を持ち続けているときっと実現する。真面目にやっているとき必ず報われる。」と言い続けてきたからである。堀井氏やイチロー選手のように、子供の時の夢がまっすぐに、ということでは無かったにせよ、そんな思いは同じであった。医師になると思ったり、考古学者になると思ったり、教師になろうとも思った。医学部に入ったというのに、福祉関係の仕事をしようかと思ひ、手話を習った時期もあった。色々回り道もしたが、結果として医師となり、そしてホスピスという明確な夢と目標を持ち、それを持ち続けて、実現に至った。遅咲きだけど、夢を持ち続けることの意味を実感できたのは同じである。



中学校2年生の時に、当時の学年担任の企画で、タイムカプセルを埋めた。約束どおり20年後ということで、皆で中学校に集まり、そのカプセルを開封した。思い出の物がいっぱい詰め込まれていた。中から短冊が出てきた。当時、それぞれに一言好きなことを書いて、入れたようである。自分では全く覚えていなかったが、「大きな夢をもち、それに打ち勝つ力を身につけよう」と書かれていた。よく考えると、おかしな文章だ。きっと「夢を実現する力を身につけよう」という意味だったのだろう。幼い文章に思わず苦笑したが、それと同時に、自分の考え方が昔とそう変わっていないことがちょっとだけ嬉しかった。もう12年も前の話である。



つい最近、中学校時代の同級生のIさん（札幌交響楽団）のバイオリンリサイタルが芸術ホールで開かれた。新聞でリサイタルのことを知り、卒業以来、一度も会っていない彼女の元気な姿を見に出かけた。演奏はもちろん素晴らしかったが、遠目に見る彼女の姿は、とても凛々しく、この道を長年歩み続けているからこそその力強さも感じた。中学校在学中にもリサイタルが開かれ、聴きに行ったことを思い出すが、あれから30年。色々なことがあったのかもしれないが、夢と目標を持ち続けて真っ直ぐに歩んでいることは、自分のことのように嬉しかった。今も第一線で活躍されている彼女は、きっと、すごい努力をしたことだろう。

夢を持ち続けること。思うだけなら誰でもできるのかもしれない。しかし、間違いなく、それを実現しようとする強い意志と努力が、結果を左右するのだと思う。そして、いい結果（夢の実現）はその人をいつまでも輝かせてくれる。私はいつも夢を持ち続けていたいし、そのことの意味を次世代の人に必ず伝えていきたい。



（平成19年3月15日 著）